

SDGs未来都市としま



豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

参考資料1-2



終活サポート事業について

令和6年9月6日（金）

豊島区 福祉部 高齢者福祉課

事業の方向性

<目的>

人生の終末を迎えるにあたり、介護、葬儀、相続などについて希望をまとめ準備を行なうこと（終活）について、区民の不安や悩みを解消するとともに、今後の生活をより豊かで充実したものとする。

① 高齢者の終活に関する不安を解消

⇒ 終活に関する多種多様な相談に対応できる体制の構築

② ご本人の意向を尊重した終活の実現

⇒ 本人の意向に沿った生前契約等の支援

③ もしもの時に自分の想いを正しく意思表示できる仕組みづくり

⇒ 終活情報登録事業の実施

事業概要

豊島区終活あんしんセンター

委 託 先 … 社会福祉法人 豊島区民社会福祉協議会

場 所 … 豊島区役所 東池袋分庁舎4階（豊島区東池袋1-39-2）

開 設 日 … 令和3年2月15日

事業対象者 … 区内在住のおおむね65歳以上の高齢者とその家族

主な業務委託内容

- 1 相談業務
- 2 終活情報登録
- 3 普及啓発

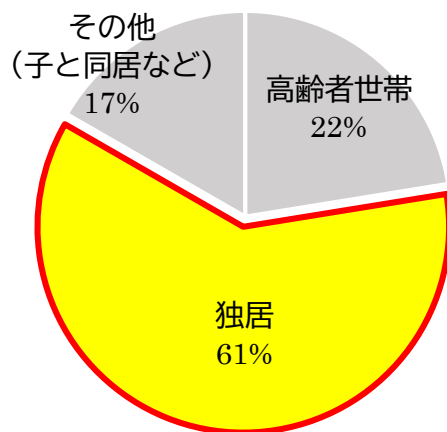


(1) 相談業務

<相談件数>

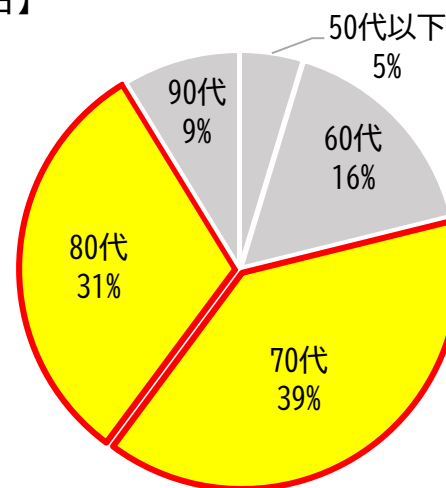
区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
相談人数 (実人数)	73人	542人	410人	538人	1,563人
延べ相談件数	100件	898件	701件	755件	2,454件

【世帯構成】



独居が **6割** を占める
(※不明は除く)

【年代割合】

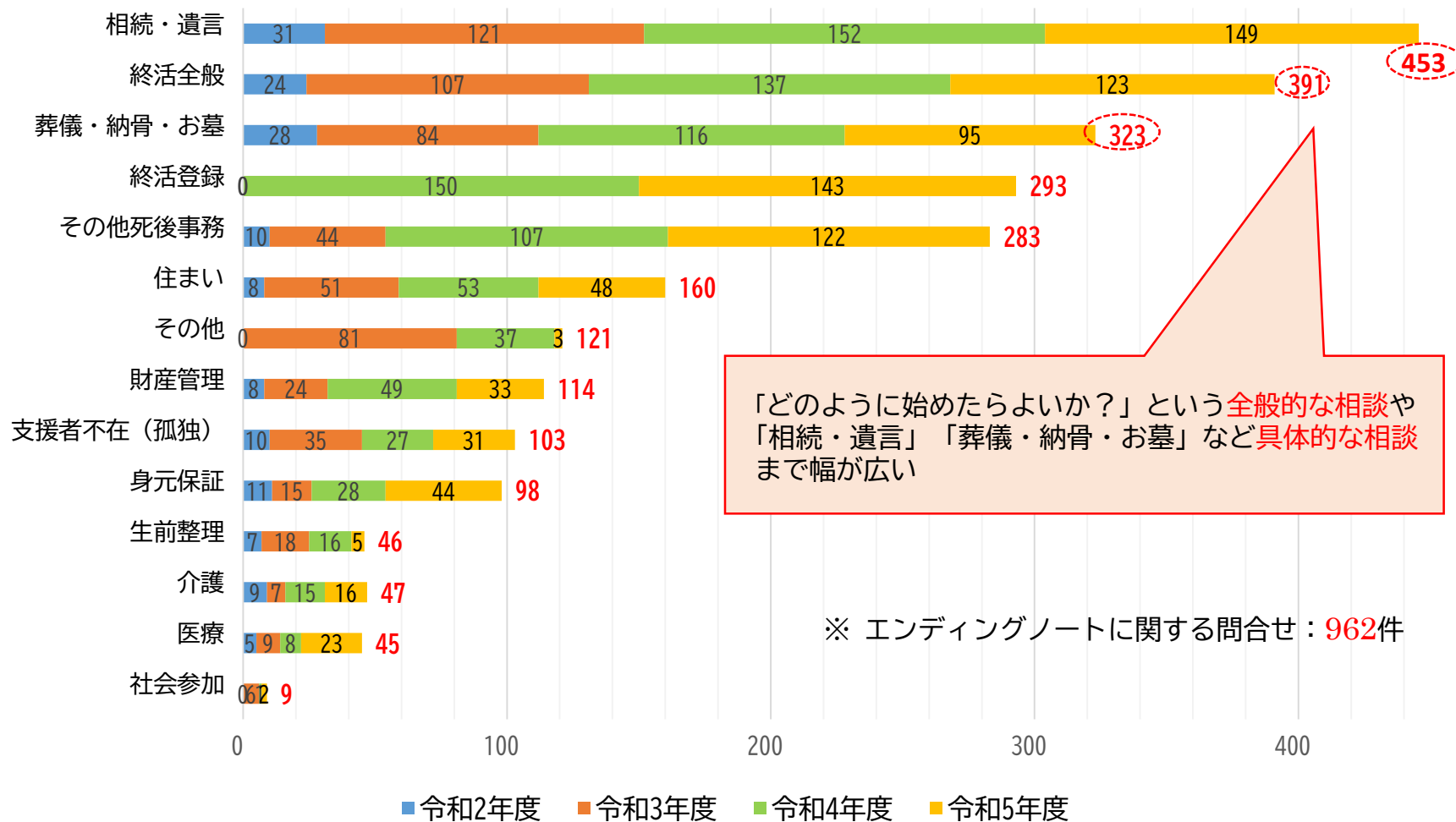


70～80代が全体の **7割** を占める
(※不明は除く)

(1) 相談業務

相談内容（件／重複あり）

（赤字：合計値）



(2) 終活情報登録事業

【事業開始日】

令和4年4月1日～

【対象者】

区内在住の65歳以上の方、その他必要と認める方

【事業内容】

- 本人申請に基づき終活関連情報（9項目）を区（終活あんしんセンター）に登録
- 本人が病気・事故等で**意思表示できなくなった時**または**死亡した時**に警察・消防・医療機関・福祉事務所及びあらかじめ照会可能な方として登録された方からの照会に基づき、**区が登録情報を開示**する。



(2) 終活情報登録事業

登録実績累計：**43**名（令和6年3月末時点）※うち40名が単身高齢者

	60代	70代	80代	90代	合計
男性	2人	7人	5人	2人	16人
女性	4人	12人	8人	3人	27人

<利用者の声>

- ・今は特に困っていることは無いが、**いざという時に親族に連絡が入るので安心**
- ・親族に緊急連絡先登録の同意書を書いてもらうのに、自分ではうまく説明できない。
職員から話してもらえないか。
→ このようなケースでは、**本人に代わり職員から説明している。**

<相談の傾向>

- ・どの項目を登録するか複数回にわたって相談した上で、登録に至ることが多い。
- ・身寄りが無く、緊急連絡先に書く人がいない場合、終活情報登録相談をきっかけに死後事務委任の相談になるケースが多い。
- ・医療機関や服薬の情報は変更が生じることが多く、その都度、変更登録手続きをしていただく必要がある。

(3) ①普及啓発 — 講演会 —



【主なテーマ】

- ・「医師から学ぶ老い支度
～ 医療についての終活ポイント～」
- ・「老後の生活を前向きに！知っておきたいお金の話し」
- ・「幸せになる遺言」

【参加者の声】

- 死をタブー視するのではなく、大事な良い話だった。
- 「かかりつけ医」を決めたいと思った。
- 残りの人生を考え直すきっかけになった。
- よく考えて遺言を書きたいと思った。

講演会	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
開催回数	1回	2回	2回	2回
延べ参加者数	35人	77人	109人	85人

(3) ②普及啓発 — 出張講座 —



【会場】

- ・ 各区民ひろば
- ・ 区民集会室(依頼元:高齢者サロン)
- ・ 高齢者住宅等

【内容】

- ・ エンディングノートの書き方講座
- ・ 終活について

【参加者の声】

- エンディングノートの書き方が分かり、帰ったらすぐに書いておこうと思いました。
- お墓について詳しく聞きたい。納骨のことなど。

出張講座	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (3月末時点)
回数	2回	13回	21回	13回
延べ参加人数	35人	351人	386人	329人

(3) ③普及啓発

◎ 終活あんしんノート（エンディングノート）の作成・配布

作成時期：令和3年12月（増刷：令和4年8月／令和5年9月）

作成部数：4,000冊（うち増刷分2,000冊）

配布部数：3,356冊（令和6年3月末時点）



【特徴】

- 弁護士や医師に**監修を依頼**
- 「**終活の見取り図**」を掲載
→ ライフステージに応じて、どのような準備をしておくが良いか、どのような介護・医療サービスが利用できるか、掲載している。

【その他】

- 配布者にアンケートを実施
→ 現在の困りごとや不安などを回答いただくとともに、その後の**ノート記入状況を適宜確認（電話連絡等）**している。

今後の方向性

<事業実績から見えてきた課題>

相談者の約半数が単身世帯
いざという時に頼れる親族が
身近にいない

「相続・遺言」「葬儀・納骨・お墓」
に関する相談が多い

もしもの時に備えておきたい

終活情報登録事業の適切な運用
登録者の生活状況の変化へ対応

相談者への見守り体制、
死後事務委任など
具体的な支援事業の方向性
について検討を進める。

令和6年度

社会福祉協議会で事業化
日常の見守り・入院支援・死後事務委任等